



お知らせ：平成26年度定期総会の開催日が6月8日に変更されました。

先月号のニュースレターで平成26年度定期総会が6月8日に開催されるとお知らせしましたが、都合により6月8日(日)の開催に変更されました。開催場所は変わらずに北広島クラッセホテルです。

当日の予定や会場への交通アクセスなど詳しい内容につきましては、後日5月下旬ころまでにご案内いたしますが、会員の皆さまにはぜひ6月のスケジュールの中に組み込んでご出席されることをお願いいたします。



北広島クラッセホテル

活動報告：「ミナミナ会」の活動

石狩里親の集い「ミナミナ会」から、最近の活動について報告がありましたので紹介します。

- ① 3月11日(火)：平成25年度総会
 - ・決算報告、事業報告、会則の改訂、来年度事業計画、役割り決めを行いました。
- ② 3月29日(土)～30日(日)：『「ミナミナ会」レクリエーション春休み一泊温泉旅行』
 - ・場所 定山溪ビューホテル
 - ・参加者 大人9名、子ども7名、計16名
 - ・初めての一泊旅行ということでどうなることかと、少々心配していましたが、大きな問題が発生することなく大人も子どもも楽しいひとときを過ごすことができました。会員同士、おたがいに親睦を図る事ができたことも大きな収穫だったのではないかと思います。
- ③ 5月13日(火)：定例会
 - ・場所 石狩市花川北コミュニティセンター2F視聴覚室
 - ・時間 10:00～12:00
 - ・予定議題 温泉旅行の反省、レクリエーションについて、学習会について、啓蒙活動について等
 - ・出席希望者は菅野までご連絡ください(電話 0133-74-6493、メール okoze751223@gmail.com)

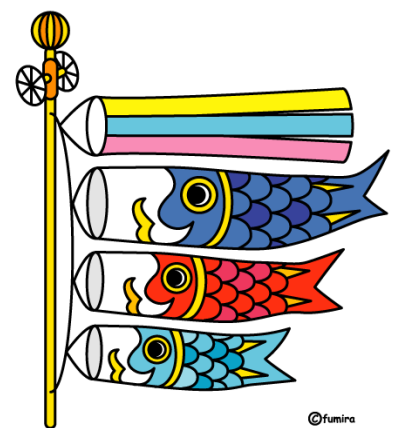


情報：「夢がもてない—日本における社会的養護下の子どもたち—」HRW 報告書

国際人権 NGO のヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) は2014年5月1日、「夢がもてない—日本における社会的養護下の子どもたち—」(全89頁)と題した報告書を発表しました。ヒューマン・ライツ・ウォッチは、世界約90カ国について毎年約150冊の報告書を発表しておりますが、2009年4月のHRW東京オフィス設立以来、初の日本に関する報告書になるということです。

報告書は、日本の児童養護施設の子どもを含む200人以上の方々を対象としたインタビューをはじめ、2年にわたる調査をまとめたもので、子どもは「幸福で愛情と理解がある家庭のような雰囲気の中で成長すべき」という国際基準(子どもの権利条約)をひきながら、日本の児童養護は、親と子の対一の関係を築きやすい「里親」ではなく、職員とほかの子どもたちとグループで生活する「施設養育」に偏っていると指摘しています。今後、ヒューマン・ライツ・ウォッチは「すべての子どもに家庭を！」キャンペーンを推進させ、日本政府に対し、社会的養護の改革を働きかけていくということです。

報告書「夢がもてない—日本における社会的養護下の子どもたち—」は、ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本のホームページからダウンロード出来ます(<http://www.hrw.org/ja/reports/2014/05/01-0>)が、ご覧になれない方もいるかと思しますので、その概要は別紙で紹介します。





情報 ;施設の子供の虐待防げ 12年度最悪、54%増の71件 (2014年4月16日 日本経済新聞 電子版)

児童養護施設などで暮らす子供への施設職員からの虐待が増えているとして、厚生労働省は近く虐待事例を分析・研究する専門チームを設ける。2012年度に確認された虐待件数は前年度比54%増の71件で、被害者も同約2倍の173人に上った。同省が調査を始めた09年度以降、件数・人数ともに最多。同省は事例の研究を通じて予防対策につなげる。

厚労省によると、12年度に全国で虐待の届け出や通告があった件数は214件。うち71件を各都道府県が虐待と認定した。施設別の内訳は、児童養護施設が51件、里親が7件などだった。173人の被害者のうち、小学生が68人、中学生が46人。全体の6割以上が男子だった。最も多かった虐待は、身体的虐待の45件。問題行動のあった子供を注意する際にげんこつや平手で十数回たたいたケースや、ぐずった子供を屋根裏の物置部屋に入れるなどの例があった。里親から閉め出されていた子供が、10日間マンションの屋上で生活していたケースもあった。次いで性的虐待の13件で、前年度の1件から急増。3年間にわたって性的行為を強要するなど、自宅や施設内で長期間、断続的に虐待を加えていたケースが見られた。このほか、幼児の目の前でパジャマや靴下などはさみで切り刻んだり、肩を押して階段から落ちる恐怖を与えたりする心理的虐待が10件。子供が起きている時間帯に職員が寝ているなどのネグレクト(放棄・放置)も3件あった。虐待した施設職員や里親の半数近くが実務経験5年未満と短いことも分かった。

こうした事態を受け、厚労省は近く、学識経験者らで構成する専門チームを設ける。具体的な虐待事例を分析し、予防策や虐待が発生した際にどのような対応を取るべきかなどを研究する。児童養護施設などに入所する子供は、親から虐待を受けた経験などから問題行動を起こすこともあり、指導が難しいとの指摘もある。全国児童養護施設協議会(東京)は「虐待はあってはならないこと。引き続き虐待防止に向けた職員らへの研修などを徹底していきたい」としている。09年に施行された改正児童福祉法は各都道府県に対し、施設職員からの虐待があったとして児童本人や周囲から通告を受けた場合に、具体的事例を集計、調査するよう求めている。

情報 ;里親さんの体験談 (埼玉県里親会ホームページから転載)

Qは小学生の… 匿名希望

Qは小学生の男の子です。家に来るまで養護施設で暮らしていました。Qとの生活も2年が経とうとしています。Qはなかなか周囲と馴染みませんでした。恥ずかしい、人見知りしてしまう、というよりも恐怖を感じているのではないかと、という雰囲気すらありました。学校では落ち着いていられませんでした。授業妨害だと言われてしまう程で、周りから見るとQが大迷惑なのですが、Qも不安とうまくいかなさを感じていましたので、毎朝とぼとぼと振り返り振り返り学校に行く日々でした。その姿を見ては私も気が重くなるのですが、更に帰ってから大爆発!とばかりに気持ちを噴出させることもしばしばありました。

家での生活の中でも最初は不安がり、ささいなきっかけで時々パニックのようになっていましたが、しばらくすると退行をしました。遊ぶのも乳幼児が好むもので遊びたがりしました。本当にその時期に出来なかったことを取り戻すようでした。小学生になったり幼児になったりQは忙しく、付き合う私もばたばたしていたように思います。

1年くらい経った頃、友達と放課後遊べるようになり、学校でも離席がなくなるなど、少し落ち着けるようになりました。家では赤ちゃんがえりもなくなりました。Qも家や学校、地域で安心して過ごせるようになってきたようでした。Qが反応性愛着障害であることも分かり、学校でもより色々な手だてを考えてくださいました。

今、Qは「じゃあ、行ってきます。」と元気に登校していきます。足取り軽く、時には遅れてもいないのに走っていきます。まだまだ色々ありますが、朝見送る時は、清々しい気持ちになります。

ようやく生活のペースも出来てきたように思います。この2年間、色々考えたりしましたが、喜びも沢山ありました。Qとの生活が色々なことに気がつかせてくれています。